

赤十字 NEWS

<http://www.jrc.or.jp>

DECEMBER 2017

NO.931

12

平成29年12月1日(毎月1日発行)

赤十字新聞 第931号

昭和24年9月30日 第三種郵便物認可

救うことを
つづける。



今年も、「NHK 海外たすけあい」キャンペーン*が始まりました。

今回で35回目を数え、これまでにいただいたご寄付は累計約244億円に上ります。

このキャンペーンを通じて、世界155カ国で支援を行ってきました。

災害時の緊急救援や紛争地での救護活動、復興支援、開発協力まで、支援の形はさまざま。

今も世界のどこかに、助けを必要としている人がいます。

8月に洪水被害を受けたバングラデシュ北部にも、皆さまの「想い^{おも}」を届けました。

被災された方たちを笑顔にするために、赤十字は支援活動を続けていきます。

【*キャンペーン情報はP.3に】

NHK 海外たすけあい | 12.1(Fri)~25(Mon)

jrc-tsudukeru.jp

CONTENTS

FEATURE__2・3

2017年バングラデシュ
北部洪水支援

すべての人に、
立ち直る力を。

SPECIAL TOPICS__4・5

近衛忠輝日赤社長が
連盟会長の任期を満了
ぶれない人道主義で
連盟をひとつに

AREA NEWS__6・7

北海道／青森／宮城／東京／静岡
／滋賀／和歌山／岡山／山口／徳島

WORLD NEWS__8

バングラデシュ南部避難民支援・続報
避難民キャンプはさらに拡大し
「いまだ緊急事態」
過酷な環境の下、支援活動は続く



赤十字新聞 編集・発行／日本赤十字社 広報室
〒105-8521 東京都港区芝大門 1-1-3
TEL: 03-3438-1311
一部 20 円
赤十字新聞の購読料は会費に含まれています。

人間を救うのは、人間だ。

 **日本赤十字社**
Japanese Red Cross Society

2017年バングラデシュ北部洪水支援

支援の心は、海を越え、時を超えて。

NHK 海外たすけあい 連動企画

すべての人に、
立ち直る
力を。

2017年夏、インド・ネパール・バングラデシュに大規模な洪水被害が発生。1800人以上の赤十字スタッフとボランティアが救援活動を展開しました。あれから3カ月。水は引きましたが、災害は終わっていません。支援の状況と現在のニーズの把握のためにバングラデシュ北部シラジゴンジ県を訪れた日赤職員が、現地からの声を伝えます。



「あっという間にここまで水が上がって
きました」と示すルキアさん

8月、記録的な大雨により南アジアで大規模な洪水が発生し、バングラデシュでは北部を中心に被災者が約820万人、倒壊家屋が72万棟にも上る、過去30年間で最大の被害を受けました。この非常事態に際し、日本赤十字社はすぐに資金や物資援助を行いました。現地の人々は現在も苦しい生活を強いられています。

日赤は、1970年代から40年以上、バングラデシュを支援してきました。ハリケーンなど災害時の緊急救援に終わらず、時には一定期間現地にスタッフを駐在させて復興をサポート。災害時、現地の方が自らの力で適切に対処し、立ち上がる力を強化するためのさまざまな支援を続けてきました。

これを「レジリエンス(回復力)支援」といい、日赤のスタッフは、必要な指導を行いながらも補助的な役割に徹し、将来的に現地スタッフが活動を継続できるよう、彼ら自身の力を高めることを優先します。このような長期的な支援が、赤十字の支援の特色です。

赤十字は、バングラデシュをはじめ、世界各地でレジリエンス支援を続けていきます。長期にわたる支援は、皆さまのご寄付によって行うことができます。現在実施中の「NHK海外たすけあい」キャンペーンに、ぜひご協力ください。

バングラデシュ
北部被災者の声、
日赤の支援の模
様を動画で →



忘れ去られてしまうことが一番怖いです

ルキア・ベコムさん (50歳)

私は、この村で採れた魚やミルクを街まで運ぶ仕事で生計を立てていました。あの日、水が家まで押し寄せてきた時、私は子どもたちと家の財産のヤギを抱え、必死に高い所まで逃げました。水はあっという間に私の背丈ほどまで上がってきて、家の中のものは全部駄目になってしまいました。

食べ物もない、生活の糧となる仕事もできない中、飲料水やお米、野菜などを赤十字のボランティアが持ってきてくれた時、どれだけ

うれしかったことか！赤十字のマークは、私の希望の象徴でした。でも、仕事にも復帰できず、家の再建もこれからで、生活は苦しいまま。洪水に漬かったこの土地で、私たちはこれからも生きていかなければなりません。今、私が一番恐れているのは、まだ困難な暮らしが続いているのに、忘れ去られてしまうことです。元の生活に戻れるまで、生計支援や水害で発生した病気に対する医療など、赤十字に助けてもらいたいです。



バングラデシュへの日赤の支援の歴史

1972年、日赤は独立戦争直後のバングラデシュに初めて難民救護班を派遣。以降数回、大型サイクロン災害に救護班を派遣しています。また、災害対策として救援物資倉庫を建設(75年)、80年代後半から90年代にかけて、サイクロン避難シェルター建設とそれを核とした地域開発事業を展開。83年のNHK海外たすけあいキャンペーン開始時には保健衛生事業をスタートさせ、バングラデシュ各地の母子保健センターの支援にも注力しました。2000年代には、若者に衛生知識を普及する青少年赤十字教育などの支援事業を行い、訓練を受けたボランティアが初期の段階から浄水器を駆使して安全な水を配給するなど、これまでの蓄積が迅速な支援につながっています。

救援物資支援

1974～



1974年、サイクロンによる洪水被害の救援のため、チャーター機で物資を輸送した

物資倉庫建設

1975～



1975年に建設、40年以上たった今も大切に維持され、災害時に大きな役割を担っている

母子保健センター

1983～



保健衛生の講習や助産師育成を行う母子保健センターの自立を支援。多くの助産師がここで誕生した

シェルター建設

80年代後半～



80年代に多数建設。サイクロンの際には人々の命を守り、普段は地元の小学校として使われている

衛生講習会

2000年代①



手洗い指導を行い、感染症予防などの知識を普及。教材を譲渡し、その後の自主的な継続を支援

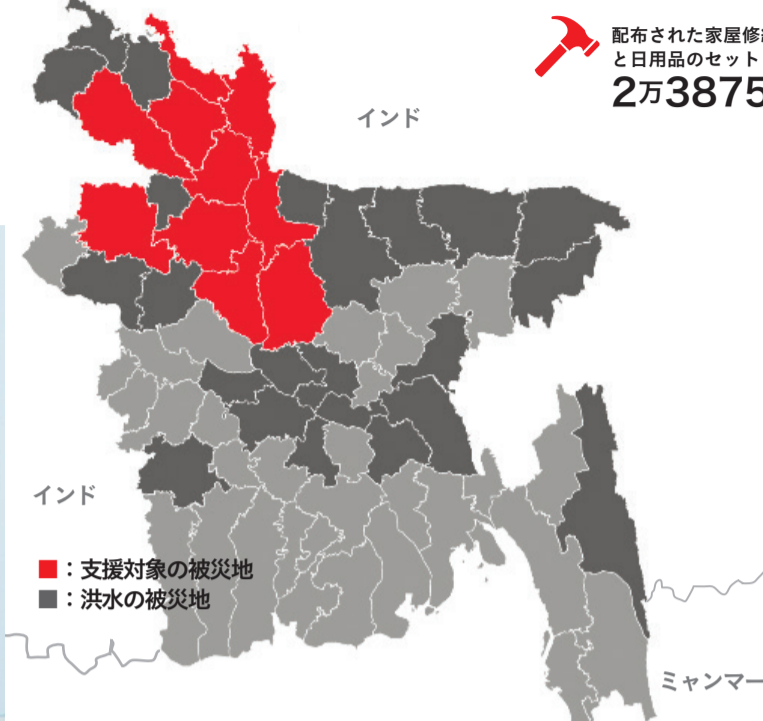
浄水器配備

2000年代②



緊急時に安全な水をすぐに供給できるよう、平時から、浄水器の配備や運用訓練などを行っている

特に甚大な被害を受けた10県



インド

インド

ミャンマー

■：支援対象の被災地
■：洪水の被災地

これまで赤十字がバングラデシュ北部洪水に行った支援 [11月11日時点]



配布された家屋修繕キット
と日用品のセット：
2万3875個



配布された石けんなど
衛生セットを届けた人数：
約2万5000人



非常食料を届けた人数：
30万9595人以上



配布された水タンク：
約2万5000個



医療支援を受けた人数：
1万8160人



活動したバングラデシュ
赤新月社のボランティア：
1200人以上



生計支援を受けた人数：
約2万5000人



赤松直美
(日本赤十字社 国際部)

大切なのは「より良い状態に戻す」支援

災害直後のバングラデシュでは、洪水により井戸が汚染され、不衛生な水で健康を害している人がたくさんいました。赤十字の支援活動により、水については改善しましたが、いまだ多くの人が倒壊した家に住んでおり、住居の支援が必要です。また、自分や家族の健康を守るために、手洗いで病気を防ぐ保健衛生の啓発活動など、長期的支援も重要です。

災害発生直後には、多くの手が差し伸べられます。しかし緊急救援が終わっても、被災者の生活は続きます。被災者がどう立ち直って回復していくのか。そして次の災害に備える力をどう高められるのか。私たちは、復興の先の「より良い状態に戻す」支援が大切だと考え、今後も活動を続けていきます。



赤十字の助けに、生きる希望が湧きました

ハシュモート・アジルくん (15歳)

あんな洪水を見たのは初めてで、目の前に迫ってくる水に、このまま自分は死ぬだろうと覚悟しました。だから、赤十字の助けが来て飲める水や食べ物をもらった時、「これで生き残れる！」と希望を感じたんです。でも、毎晩読んでいた教科書が流されたことは今でも悔やまれます。学校にもまだ通えません。僕のような子どもたちが一日も早く学校に行ける支援を赤十字に期待しています。そして、いつか僕も赤十字の活動に関わりたくて夢見ています



元の生活に戻るための支援が必要です

ショブナ・カトゥンさん (45歳・写真中央)

赤十字が被災直後にきれいな水を運んでくれた喜びは、今でも忘れません。その時に配布された水のタンクは今でも使っていますし、簡易テントは家の屋根にかぶせて雨をしのぐのに役立っています。今の生活は支援物資などの援助が頼りで、洪水前は毎日3食、食べることができましたが、今は2食に減らしています。苦渋の選択で10歳の息子のバジェットが学校に行く回数を減らして家計を抑えても生活は苦しいです。1日も早く元の生活に戻れることを願っています

30年以上続いてきた“たすけあい”の精神

「NHK海外たすけあい」とは

今、世界では1億3000万人もの人々が、紛争や自然災害、飢餓、病気などで命の危機に直面しています。こうした人々を救うため、昭和58(1983)年から毎年、日本赤十字社がNHKと共同で実施しているキャンペーンが「NHK海外たすけあい」です。これまでに、世界155カ国に支援をしてきました。今年度は世界50カ国と地域の人々へ、皆さまからの気持ちを届けます。紛争や災害により募集される海外救援金を除き、日赤が行うほとんどの国際活動事業の財源が、本キャンペーンの募金によってまかなわれています。

赤十字の支援の特徴

①あなたのご寄付を確実に届けます

「苦しんでいる人を救いたい」という共通理念を持つ、世界190の国と地域にある赤十字社の姉妹社と協力し、支援を確実に届けます。

②地域に根ざした継続的な支援をします

地域に根ざして活動しているからこそ、いち早く必要な支援を届けることができ、かつ継続して支援することができます。

③あらゆる地域に支援を届けます

各国に赤十字があり、中立の立場で活動しているからこそ、国際社会の支援が届きにくい地域にも支援を届けることができます。

日本も、海外からの支援に助けられました。

苦しい時は「たすけあい」もの。
皆さまのご寄付をお待ちしております。

日本が受けた「海外救援金」	
関東大震災	現在の貨幣価値で 米国から約1600億円 ※1 世界から約3300億円 ※2
東日本大震災	1002億1436万5937円 ※3
熊本地震	1億4645万6962円

※1：2500万ドルを現在の貨幣価値に換算
※2：連盟(IFRC)統計で約1億310万円(1923年当時)
※3：クウェートからの原油約400億円分含む

あなたのご寄付でこんなことが実現します

2000円＝食料1人2カ月分

500円なら、赤ちゃん用おむつ50枚
1万円あれば、食料5人家族2カ月分
を支援できます。



ご協力方法



郵便局・各金融機関

全国の郵便局、その他取り扱いのある金融機関で寄付できます。
郵便振替(ゆうちょ銀行・郵便局)
口座番号：00120-5-220
口座名義：日本赤十字社(ニホンセキジユウジヤ)



インターネット

クレジットカードやPay-easyで寄付できます。

日赤 海外たすけあい

検索

特設サイトへ→



窓口

日本赤十字社の各都道府県支部、赤十字病院、献血ルーム、NHK放送局などから寄付できます。

NHK 海外たすけあい

SPECIAL TOPICS

近衛忠輝日赤社長が連盟会長の任期を満了 ぶれない人道主義で連盟をひとつに

日本赤十字社の近衛忠輝社長は、世界の赤十字・赤新月社を束ねる国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC/以降「連盟」)の会長としても活動してきました。2009年にアジア人初の会長に就任して以来、2期8年間、多くの業績を残しこのほど任期を満了。11月6日～8日、トルコで行われた連盟総会にて最後のスピーチを行いました。



**I am
78 years young,
not old,
and still
a Red Crosser.**

——— Tadateru Konoe

多くのボランティアに慕われて

自らの足で世界各地の現場を歩いてきた会長だけに、総会の開会スピーチでは、防災の取り組み強化、ボランティアの保護などについて提言。特に、未来のため欠かせない人材育成について「より戦略的なアプローチが必要。人道教育は知識ではない価値の教育。災害軽減への鍵となる」とその重要性を訴えました。仲間に感謝と激励を述べた退任スピーチの最後でも未来を見据え、「私はまだ78歳の若者。赤十字人であり続けます。世界最大にして最高の人道活動ネットワークの先陣を切っていくつもりです」と結びました。

閉会を告げた会長の周りには各国代表の輪ができましたが、最後に会長を囲んだのはボランティアたち。赤十字を支えるのは彼らであることを強調してきた会長に敬意を表しつつ、退任を惜しんでいました。

今後は、会長経験を生かして日赤の社長職に専念。「日赤は国内での活動が圧倒的に多い中で国際支援も行っている。活動規模が大きいので、全加盟社のモデルになり得る。日本には他者の気持ちを察するという精神性がある。そういった日本の良さを生かせれば、これまでと違った役割も果たせるのではないかと今後の展望を語りました。

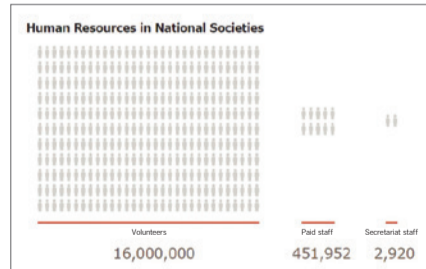
に生まれました。まさに運命でしょう。赤十字は私のライフワークなのです」と活動にかける特別な思いを表現。さらに、「Spirit of Togetherness」を世界の加盟社にもたすため、良き聞き役に徹したことにも言及。より効果的な支援のために奔走した日々について「長距離フライトや悪路を移動中でも眠ることができ、どんな食事もダンスも人々と共に楽しむことのできる好奇心旺盛な人でありたかった」と振り返り、精力的な活動を支えた情熱をのぞかせました。

近衛忠輝会長は、1964年に日本赤十字社に入社以来、50年以上にわたり人道支援の第一線で活動を続けてきました。総会の閉会目、長年の貢献が紹介されると、各国加盟社の代表から盛大なスタンディングオベーションが起き、人道活動に不可欠な「Spirit of Togetherness (連帯の精神)」を強化したリーダーシップをたたえました。

その後の退任スピーチの冒頭には、「78年前——そう、1939年5月8日、私はアンリ・デュナン」の誕生日である世界赤十字デー

190の国と地域をまとめた近衛会長が スローガン「Spirit of Togetherness」の下、行った主な取り組み

【加盟各社の実績を数値化】 【ボランティア憲章策定】 【「人道の空白地帯」の解消】 【核兵器廃絶への取り組み】



世界最大の人道団体としての活動実態を把握する「Who we are」活動の土台として、加盟各社の規模や現状を同じ指標でまとめてデータベース化(www.data.ifrc.org/fdrs)。具体的な活動状況を認識することで、世界に発信するためのツールになり、支援を受ける側・行う側双方からの信頼構築につながりました。



赤十字の主軸であるボランティアの立場を高め、保護するため、彼らの権利、責任、「人類の苦しみを予防し緩和する」という使命や役割について国際組織として初めて公式に定義し、行動規範となる憲章を策定。ボランティアに対する会長の強い共感が形となり、「Who we are」活動の集大成として、今回の総会で採択されました。



任期中、71の国と地域にある加盟社を訪し、人道外交を積極的に展開。とりわけ、会長として最後の訪問国となったインド洋の小さな島国コモロ連合と南アフリカのレソト王国のように、「大きなニュースにならない人道問題」に日々地道に取り組む地域へ高い関心を寄せ、弱者を孤立させないための連帯感を喚起し続けました。



戦後、核兵器の使用禁止と廃絶を訴え続けてきた赤十字ですが、特に近年は、会長の強い信念の下、ICRCとの連携を強化し共に積極的に活動。2011年には赤十字代表者会議で、「核兵器は国際人道法と両立しない。ひとたび使われると救援活動が成り立たない」と決議。具体的な行動計画を採択するなど、核軍縮への動きに貢献しています。

「連盟」とは？：総称を「国際赤十字・赤新月社連盟」とい(英語略称：IFRC)、世界最大の人道支援団体で、日赤を含む190の国と地域で活動する各国赤十字社で構成されている

国際的連合体。前身である赤十字連盟は1919年に設立され、最高議決機関は通常2年ごとに行われる総会で、会長が議長となり活動方針や事業計画などが協議されます。連盟

は主に非紛争地帯における自然災害等の国際救援の調整を行い、赤十字国際委員会(ICRC)は紛争・内乱における保護・救援を行っています。

会長の“右腕”が語る President KONOE

近衛連盟会長のビジョンを実現させるべく、事務局のトップとして重要な役割を担ったエルハジ・アマドゥ・シィ連盟事務総長。最も近くで仕事ぶりを見ていた人物に、会長について伺いました。

Q：近衛会長と共にした3年を振り返ると？

「近衛会長とご一緒できたことは光栄です。会長は着任前から日本赤十字社および連盟で、数十年に及ぶ人道的活動の豊かな経験をお持ちで、それを全ての活動において生かし、導いてくださいました」

Q：会長の行った取り組みの中で、特に印象に残っているのは？

「ボランティアに大きな共感を示したことです。それが、ボランティア憲章の採択につながりました。会長のモットー“人道の空白地帯を作らない”に即した活動にも感銘を受けました。こういった姿勢こそが、偉大なリーダーシップの表れであり、私たちに進むべき道を示すインスピレーションともなるのです」

Q：会長が連盟にもたらした影響とは？

「連盟の仲間に、より強固な貢献心と団結心をもたらしたことです」

Q：事務総長にとって近衛会長とは？

「会長が持つ品格、弱者を排除せず包み込む力、謙虚さ、そして、他者を信頼し、その話に耳を傾け、敬意を表し、忠実であることに感銘を受けました。初めは同僚として出会いましたが、素晴らしい人柄を知った後は良き友となりました」

Q：最後に会長へのメッセージをお願いします。

「近衛会長、あなたの導き、慈悲深く包摂的なリーダーシップの下、安心できるポジティブな環境でご一緒できたことはこの上ない栄誉であり、素晴らしい経験でした。任期満了は絆の終わりを意味するものではありません。引き続き日本赤十字社社長として、共に活動していき、一人の人道活動家として、その知識と経験から多くを学べることを期待しています。友情を礎に、これからも人道支援の旅を続けていきましょう。近衛会長、ありがとうございました」



エルハジ・アマドゥ・シィ連盟事務総長

母国セネガルでNGO活動に従事した後、国連開発計画(UNDP)におけるHIV/エイズ事業部、国際合同エイズ計画(UNAIDS)、国連児童基金(UNICEF)など、国際的な人道機関での要職を歴任。2014年8月より現職。



赤十字メンバーからの声



自然災害と紛争の被害に区別がつきにくい今、ICRC(赤十字国際委員会)と連盟の協力が大切。力を合わせ、同じ目的に向かうことができ感謝しています

ペーター・マウラー ICRC 総裁



会長として初めて我が国を訪れ、ボランティアを励まし、活動の模範を示してくださいました

エドワード・タンバ・ンガンディ
シエラレオネ赤十字社社長



南アフリカの国である我が国で人道外交していただき、私たちも連盟という家族の一員だと実感できました

コパノ・マシロ レソト赤十字社事務総長



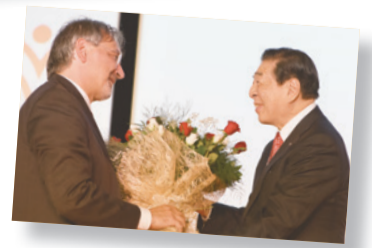
彼の思いやりは本物。人の話に耳を傾け、そこから学び、行動できる人

ジュリー・タルボット
ニュージーランド赤十字社
副社長



彼の前では誰もが平等。このように勇敢なことは、誰にでもできることではありません！

キャサリン・サバリ
連盟事務局 ガバナンス支援部



新しいリーダーとして近衛社長の姿勢を見習うべく、切り開いた道を歩き、赤十字活動の発展に尽力することを誓います

フランチェスコ・ロッカ
連盟新会長/イタリア赤十字社社長



“Spirit of Togetherness”を通して、共にチャレンジすることで互いから学べることを伝えてくださいました

アンマリー・フーバーホットツ
連盟副会長/スイス赤十字社社長

AREA NEWS

日々の生活や未来を支援するために。
全国各地、あなたの生活のすぐそばで、
日本赤十字社の活動は行われています。

北海道

「北海道社会貢献賞」を受賞 地域に根ざした地道な活動が評価

苫小牧市赤十字奉仕団が2017年度北海道社会貢献賞を受賞。10月27日、道庁赤れんが庁舎で表彰式が行われました。この賞は、日常生活を明るくし、住みよい環境にするために住民活動やボランティア活動をしている個人や団体に授与されるもの。同団は障害者スポーツ大会での活動補助や、福祉施設での入浴やレクリエーションの補助、献血への協力などを継続して行ってきました。



「奉仕活動には学ぶことがたくさんある」と語る蔵本(くらもと)委員長(中央)

青森県

歌で防災意識を高めよう！ 防災イメージソングを制作

日赤青森県支部は、東日本大震災を教訓に、特に幼稚園・保育園児への防災教育を重要な課題と捉え、防災イメージソング「愛をつないで」を制作。10月16日に青森県庁で園児たちが歌うお披露目会が行われました。作曲はシンガー・ソングライターの桜田マコトさん、作詞は八戸市の認定こども園みどりのかぜの園長・田頭初美さん。県内の幼稚園や保育所などを中心に広める予定です。



「誰もが口ずさめるメロディーを意識しました」と桜田さん(後列・右から2人目)

宮城県

えんげ 嚥下障害による肺炎、窒息を防ぐ！ 食事介助の仕方を勉強

高齢者に多く見られる嚥下障害についての勉強会が、石巻赤十字病院で開催され、県内の関係者ら約140人が参加しました(年4回開催、最終11/20)。主催は、石巻地方の医療・介護従事者の有志でつくる「食べる輪(わ)」。



嚥下障害は、喉や舌の筋力が弱まり食べ物や喉を通りにくくなる症状

東京都

「火山噴火！」八丈島での防災訓練 空から参加した赤十字飛行隊

警視庁や東京消防庁など約20機関、約3500人が参加する合同防災訓練が11月5日、東京都の八丈島、青ヶ島で実施されました。訓練は、火山の



血液製剤を積んで八丈島空港に降りる赤十字飛行隊

噴火および南海トラフ地震により地震・津波が発生し、全島避難を開始するケースを想定。海への転落者をヘリコプターや水上バイクで救助するなど、さまざまな訓練が行われ、赤十字飛行隊は血液製剤の救急輸送を実施しました。

静岡県

エプロンや布団カバーなどを製作 今年も、高齢者施設へ寄贈

伊豆市赤十字奉仕団は今年の夏から秋にかけて製作したエプロンや布団カバーを高齢者施設へ寄贈します。この活動は地域赤十字奉仕団活動の活性化事業の一つで、今年で3回目。奉仕団の今井久子委員長は「施設の皆さんに喜んでほしい」と語りました。こころを込めてミシンや手作業で仕上げられた“作品”は、シクラメンの鉢植えを添えて、12月上旬に各施設へ届けられます。



各施設の要望に応じて、座布団カバーやよだれかけも製作

滋賀県

チーム医療の全国コンテストで 大津赤十字病院が優勝！

10月21日、チーム医療の甲子園と称される「第16回千里メディカルラリー」が大阪で開催。500人の観衆が見守る中、選抜20チームが競いました。メディカルラリーとは、さまざまな救急医療現場を想定し、時間内にどれだけ的確に診断・治療ができるかを競う技能コンテスト。優勝した大津赤十字病院は「基幹災害拠点病院として、さらに救急・災害医療の向上を図ります」と語りました。



「大規模震災2日目の避難所」ステージも高得点でクリア

和歌山県

石油コンビナートに津波と火災！ 「世界津波の日」防災訓練

和歌山県の関西電力海南発電所は11月2日、5日の「世界津波の日」に合わせて巨大地震を想定した防災訓練を開催しました。日赤和歌山県支部は県や消防、海上保安部など26機関と共に参加。車両24台、船舶7隻、ヘリコプター1機が出動し、海上へ流出した原油の回収、同発電所内の石油コンビナートで発生した火災の消火活動、負傷者救護などの訓練を行いました。



負傷者治療の優先順位を決めるトリアージや治療訓練も実施

東京都

“紛争下で狙われる医療支援”

●開催内容がテレビ放送されます！

Eテレ(NHK) 12月2日(土) 14:00～

赤十字シンポジウム2017が10月28日、表参道ヒルズ・スペースオーで開催され、約250人が来場。紛争地での医療施設などを狙った攻撃の問題について熱い議論が交わされました。8月から10月中旬までイラク共和国モスルに派遣されていた渡瀬淳一郎医師(大阪赤十字病院)が登壇し、現地での活動を語りました。



「NHK海外たすけあい」の一環としてNHKと日赤が共同で開催

岡山県

最後は観客も一緒に大合唱 チャリティコンサートを開催

日赤岡山県支部は10月8日、イオンモール岡山のおかやま未来ホールで、創設130周年を記念して「赤十字チャリティコンサート」を開催。長きにわたる支援への感謝を伝え、赤十字についての理解を深めてもらおうと、赤十字にまつわる映像と吹奏楽による演奏を届けました。最後に東日本大震災の復興支援ソング「花は咲く」が流れると、観客との大合唱となりました。



県内2つの吹奏楽団が協力、岡山赤十字病院の職員も参加

山口県

今年も1000人以上が来場 やまぐち赤十字フェスタ2017

10月22日、山口赤十字病院、小野田赤十字病院、山口県赤十字血液センターと日赤山口県支部の合同イベント「もっと知って！やまぐち赤十字フェスタ2017」を山口県内赤十字施設にて開催しました。2回目となる今回も多くボランティアの協力の下、赤十字の事業を体験できる企画を実施。「放射線科体験ツアー」では、興味津々の子どもたちから次々と質問が飛び出しました。



「体験内容が盛りだくさんで時間が足りなかった！」と来場者

徳島県

新棟に「日帰り手術センター」を増築 屋上は津波避難スペースとしても活用

徳島県支部創立130周年記念事業として徳島赤十字病院の改修・増築工事が完了。新棟3階の「日帰り手術センター」は、心臓のカテーテル検査の一部や内視鏡による大腸ポリプの切除など、1日に10～20件の日帰り検査・手術に対応します。また、南海トラフ巨大地震などの津波対策で、屋上を地域住民の一時避難場所として利用できるよう、屋外に避難階段が設置されました。



若手の医療技術者の育成のため、トレーニング室も新設

北海道

理想の看護師を目指して― 決意を新たに、3校で戴帽式

10月～11月、北海道の浦河赤十字看護専門学校、伊達赤十字看護専門学校、宮城県石巻赤十字看護専門学校で戴帽式が開催されました。戴帽式は、今後院内で臨床実習を行う学生たちヘナースキャップを授ける儀式。浦河赤十字看護専門学校の武岡学校長は「ナースキャップは軽いが、それをかぶれば、人の命や健康を守っていく重い使命がある」と学生を激励しました。



キャンドルに灯火し決意を新たに(伊達赤十字看護専門学校)

企業連携

“隠れた被災者”を癒やす新協定



日本赤十字社はネスレ日本株式会社と「災害時における支援協力に関する協定」を締結し、10月24日に調印式を行いました。災害の被災地では、支援者も大きなストレスを受けるため、「隠れた被災者」と呼ばれています。日赤はそのストレスを軽減する「こころのケア」を展開。支援者が心身を休め、元気になって職務に戻るために、ネスレ日本の提供によるコーヒーマシンや菓子などが役立てられます。



ネスレ日本の高岡浩三CEOがこころのケアの一環のハンドケアを体験

バングラデシュ南部避難民 救援金受け付け中

避難民を取り巻く状況が深刻化する中、日赤では引き続き下記のとおり救援金の受け付けを行っています。ご寄付いただいた救援金は、日赤による保健医療支援に加え、避難されている方々の食料や生活必需品の確保、安全な水や衛生などの緊急ニーズに応えると共に、こころのケアや離散家族支援などに充てられます。皆さまの温かいご支援をよろしくお願いいたします。

- 救援金名称：バングラデシュ南部避難民救援金
- 受付期間：平成30年3月31日(土)まで
- 協力方法

- (1) 郵便振替によるご協力(ゆうちょ銀行・郵便局)
 - 口座番号 00110-2-5606
 - 口座名義 日本赤十字社(ニホONSEKJYUJISHA)
 - ※通信欄に「バングラデシュ南部避難民」と明記してください
 - ※窓口でのお振り込みの場合は、振込手数料が免除されます(ATMによる通常振り込みおよびゆうちょダイレクトをご利用の場合は、所定の振込手数料がかかります)
- (2) 銀行振り込みによるご協力
 - ①三井住友銀行 すずらん支店 普通 2787769
 - ②三菱東京UFJ銀行 やまひこ支店 普通 2105774
 - ③みずほ銀行 クスギ支店 普通 0623404
 - ※口座名義はいずれも「日本赤十字社」※ご利用の金融機関によっては、振込手数料が別途かかる場合があります
- (3) クレジットカード・コンビニエンスストア・Pay-easyによるご協力
 - 詳細は日赤のサイトをご覧ください。

日本赤十字社 救援金 バングラデシュ南部避難民

検索

<http://www.jrc.or.jp/contribute/help/cat817/index.html>



present プレゼント

株式会社オンワード樫山提供
トートバック
5名様
にプレゼント！

日赤を通じ、海外の被災地や復興中の地域へ毛布などを贈る同社の活動「オンワード・グリーン・キャンペーン」とのコラボにより製作されたバックです。

サイズ:35センチ×32センチ(約)
綿100%(無漂白)

希望者は、以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・メールでご応募ください。

- ①お名前(匿名をご希望の方は、その旨もご記入ください)
- ②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④年齢
- ⑤赤十字NEWS12月号を手に入れた場所(例/献血ルーム)
- ⑥12月号で良かった記事、興味深かった記事はどれですか？(いくつでも)
- A.表紙
- B.すべての人に、立ち直る力を。
- C.NHK海外たすけあい
- D.ふれない人道主義で連盟をひとつに
- E.エアニュース
- F.プレゼント
- G.ワールドニュース
- ⑦赤十字NEWSのご感想、扱ってほしいテーマ、その他Voice(読者の声)への投稿もお待ちしております。

郵送/〒105-8521

東京都港区芝大門1-1-3 日本赤十字社
広報室 赤十字NEWS12月号プレゼント係
FAX/03-6679-0785 メール/koho@jrc.or.jp
(件名「赤十字NEWS12月号プレゼント係」)
12月25日(月)必着

※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます
※個人情報 は賞品の発送のみに使用いたします

WORLD NEWS

バングラデシュ南部避難民支援・続報

*国際赤十字では、政治的・民族的背景および避難されている方々の多様性に配慮し、「ロヒンギヤ」という表現をしないこととしています

8月25日から11月11日までの 79日間で赤十字が バングラデシュで行った支援	
	食料を届けた総人数：39万8765人
	配給した安全な水：12万2710リットル
	医療診療した人数：1万4372人
	配布した衛生キット：3万1647キット
	配布した食料：810トン
	支援したシェルター：2万8019家族
	配布した毛布：3万5070枚
	衛生指導を届けた人：2万1350人



避難民キャンプはさらに拡大し「いまだ緊急事態」 過酷な環境の下、支援活動は続く

8月25日から相次いだ暴力行為のため、ミャンマーのラカイン州に暮らす多くの人々が、バングラデシュ南部に避難しています。その数は60万人以上とされ(国連など発表)、避難しても住居はなく、食糧や安全な水も窮乏。劣悪な衛生環境による健康被害も報告され、前例のない規模の人道危機となっています。

避難民の激増に伴う非常事態を受け、バングラデシュ赤新月社、赤十字国際委員会(ICRC)、国際赤十字・赤新月社連盟(連盟)、各国赤十字・赤新月社が、避難民に対する緊



日赤の診療所に列をなす避難民。いまだ1日平均200〜300人を診療

急支援を行ってきました。日本赤十字社は9月16日に医療先遣隊を派遣、その後20日にはERU(緊急対応ユニット)第1班を、10月20日には第2班を派遣し、巡回診療やこころのケアを行っています。

11月に入っても、避難民キャンプがさらに拡大して医療支援が届かない地域もあるとみられ、現地ではいまだに緊急事態だと言われています。日赤のERUは現在、2つのキャンプの5カ所で巡回診療を行い、延べ6800人以上を診療してきました。恐怖や不安のストレスを緩和するケアも重要で、これまで子どもを中心に実施してきたこころのケアを、



避難民を雇用し、基幹診療所を建設

今後は症状が深刻な成人に対しても展開する予定です。

サイクロンシーズンにあり、コレラなどの流行も懸念される中、日赤のさらなる貢献が期待されています。日赤は医療支援を3月末まで延長。巡回診療の拠点を増やし、基幹診療所としてBHC-ERU(基礎保健緊急対応ユニット/仮設診療所)を設置する(写真上)など、医療活動を強化していきます。

日赤が行っている避難民の支援活動は、企業からの支援にも支えられています

支援品をこのように活用し、現地での活動を行っています

ポカリスエットパウダー1000袋 / 大塚製薬株式会社

用途 高温多湿で脱水症状の危険が高い現地の環境下、熱中症対策として

毎日、照り付ける太陽の下、坂道を30〜40分歩いて巡回診療場所へ向かっています。噴き出す汗に、当初は水を飲むようにしていましたが、喉が渇いているのにあまりたくさん飲めませんでした。飲みやすいポカリスエットは体に染みこむ感覚もあって、私たちの活動に不可欠なものとなっています。

ヘッドナース/大谷香織(和歌山医療センター)



防虫蚊帳(Olyset® Net)60張 / 住友化学株式会社

用途 休憩所の確保および診療スペース確保として

私たちは日赤の診療所を守る仕事をしています。ここはマラリアの流行地で、蚊に注意しなければなりません。日赤の方が、私たちにも蚊帳を支給してくれました。薬剤を含む素材で蚊を退けるこの蚊帳のおかげで暑い夜も涼しく眠り、元気に診療所の警備に当たっています。

固定型診療所を警備/避難民のマヌッドさん(左)とヌルハソンさん(右)



衛星携帯電話6台 / ソフトバンク株式会社

用途 移動中の危機管理のためのコミュニケーションツールとして

私たちが巡回診療をしている避難民キャンプは、日々拡大しているため、正確な地図がありません。そのため、新しい活動候補地や道の分岐点でこの衛星携帯電話を使用し、位置情報を取得しています。その情報を落とし込んだ新しい地図を作成しており、日々の業務で遠回りを防ぐことにもつながっています。

事務管理要員/嘉成義彰(大阪府支部)



栄養補助食品750個 / ネスレ日本株式会社

用途 支援活動の中、現地では不足しがちな栄養の補助として

平均気温が毎日30度になるバングラデシュの暑さは、私の住む九州とはまるで違います。そのため、食欲が落ちることもあります。テントの設営などの業務は体力がなければこなすことはできません。いただいた栄養補助食品(ペムパル)に助けられながら業務を行い、また、健康を維持することもできています。

技術要員/坂井宏一(熊本赤十字病院)

